

平成 21 年 7 月 3 日作成

CHOCO SOFT

作成者 のんき爺

SQLite Easy Viewer 簡単マニュアル Version1.03

1. このソフトについて
2. 起動
3. 設定登録
4. 登録画面について
5. 登録画面について (その2)
6. 登録画面について (その3)
7. 表示件数について
8. 再読込とCSV出力について
9. SQL簡単入力機能について
10. まいSQL文登録機能について
11. DB作成機能について
12. DB内のテーブル名を表示させる
13. テーブル内のデータを削除したい
14. 終了
15. ユーザーモードの設定及び、配布について
16. 各DBの設定について (参考資料)

作者への問い合わせ先について

URL : <http://www.choco.org.uk/chocodb/>

Mail : nosakio@yahoo.co.jp

このソフトについて

このソフトは、作者がDB関連のプログラムを作る際のユーティリティとして開発しております。

当初は **SQLite2** のみの対応でしたが、業務上必要に迫られたり、近くの同僚が使っているDBに対応したらいいだろうなと思って追加したりして、今現在の接続としては7種類のDBに対応しております。

このソフトの最大のポイントは全部で6点です。

- ① 標準で各DBに対応しているため、別途ODBCドライバをダウンロードする必要がない。(対応外のDBでも、ODBCがあれば接続できる。)
- ② テーブル名がわからない時には、自動的に対象のDBにあるユーザーテーブルを表示します。
- ③ **SQL92** に準拠した簡単な汎用SQL文をテンプレートとして内蔵しましたので、いつでもテンプレートが呼出せ、簡単なSQL文については書籍などが不要になります。
- ④ 自分で作成したSQL文を最大9個まで、前面のボタンに登録でき、いつでも呼出せます。
- ⑤ SQL文に登録したボタンはそれぞれ任意の名前がつけられますので、DBがわかっている人が設定してあげれば、簡単な操作が初心者でも可能です。
ボタン名称例) 資格Aを持つ人一覧、パート給与マスタ等
- ⑥ エンドユーザーの処理用に、データの削除など危険な操作ができない【ユーザーモード】機能がありますので、PCの操作がわからない初心者にも安心してデータの閲覧やCSV出力を任せられます。(Ver2.64から)

今後は、対応するDBを増やすのとデータのインポート、エクスポート機能を充実させる予定です。

ご利用ありがとうございます。

1. 起動

このソフトはダウンロードしてから、解凍ソフトで「EXE」ファイルに解凍して、適当な場所にコピーしてから使って下さい。

コピーする場所は、特に指定しておりませんのでデスクトップ等でもOKです。

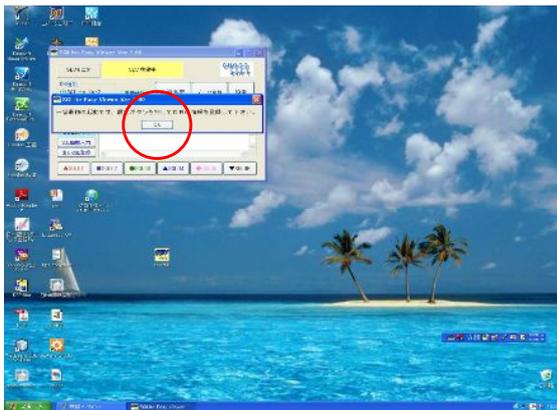
解凍すると「SEV263.EXE」が画面に表示されますので、マウスでクリックして下さい。



2. 設定登録

初回起動時には、登録ファイルが存在しませんので利用対象のRDBを設定、登録して下さい。1回登録すると2回目以降の起動時には警告メッセージは表示されません。

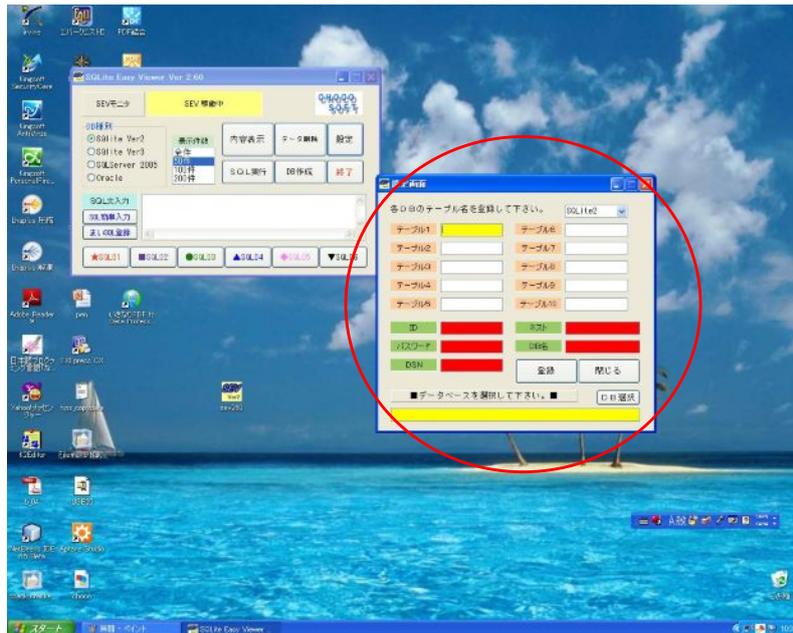
尚、設定ファイル「VIEW.INI」を誤って削除してしまいますと、再度警告メッセージが表示されます。(全ての設定が記入されますので、できれば消さないで下さい。)



3. 登録画面について

DBの設定、登録を行う時は『設定』ボタンをクリックして下さい。
登録できるテーブル数は、各DB毎に最大10となります。
各DB毎に設定必須項目がありますので、必ず入れて下さい。
わかりやすくする為に、基本的に必須項目は背景色を黄色にしております。
設定が終わりましたら、登録ボタンをクリックして下さい。

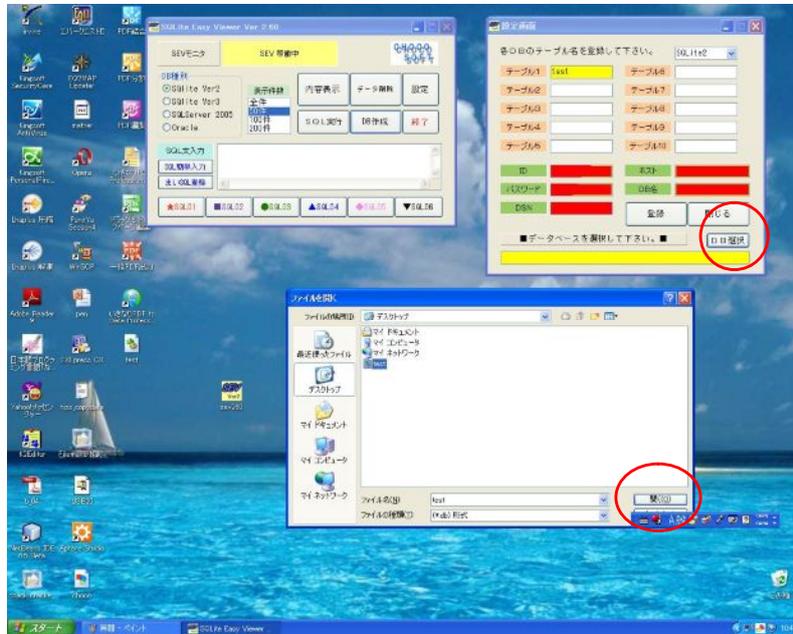
尚、設定画面の一番右上のコンボボックスでは、7種類のDBが選択できるようになって
ますので、お使いになっているDBの種類に応じて種別を選択して下さい。



4. 登録画面について（その2）

SQLite2 及び SQLite3 に限っては、DB ファイルの位置（場所）も登録する必要があります。

『DB 選択』ボタンをクリックするとファイル選択画面が表示されますので、DB ファイルを選択して『開く』ボタンをクリックして下さい。



SQL Server2005 の注意点。

- ・ ホスト欄にはインスタンス名を入力して下さい。（例：test¥SQLEXPRESS）
- ・ DB 名は、無料バージョンの EXPRESS をご利用時はそのまま DB 名を、有料バージョンであるスタンダードやエンタープライズの場合は詳細 DB 名を入力して下さい。
（例：EXPRESS→TESTDB）
（例：STANDARD→dbo. TESTDB）

Oracle の注意点。

- ・ TNS ネームの入力欄が無いので、DSN に TNS ネームを入力して下さい。

5. 登録画面について (その3)

『登録』ボタンをクリックして、『設定登録できました』と言うメッセージが表示されましたら、登録は完了です。



6. 表示件数について

メインメニューの中央左に、DBからのデータ抽出の際に表示される件数を制御できるようにしてあります。

何故かと言うと、データ量が多いDBですと表示されるまで何十分もかかる時があるからです。

デフォルトは50件になってますので、どうしても多めに表示させたい場合は、ここを調節して下さい。

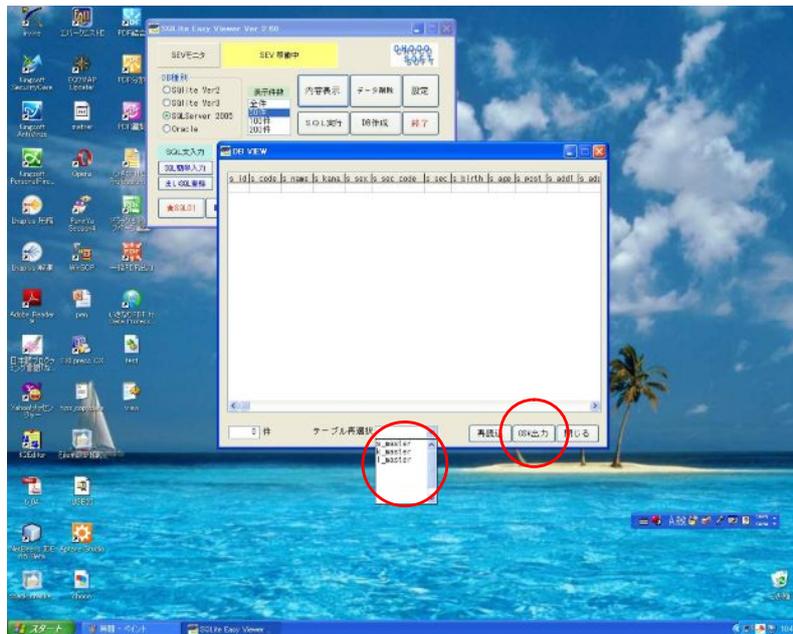


7. 再読込とCSV出力について

設定登録したDBのテーブル内容を表示した際に、中央下のコンボボックス内に設定登録した各テーブル名が表示されますので、それを他のテーブルに選択して『再読込』ボタンをクリックしますと、他のテーブル内容が表示されます。

表示されたテーブル内容をCSVファイルに出力したい時には、『CSV出力』ボタンをクリックして下さい。

出力されたCSVファイルは、そのまま他のソフトウェアで利用できます。



8. SQL簡単入力機能について

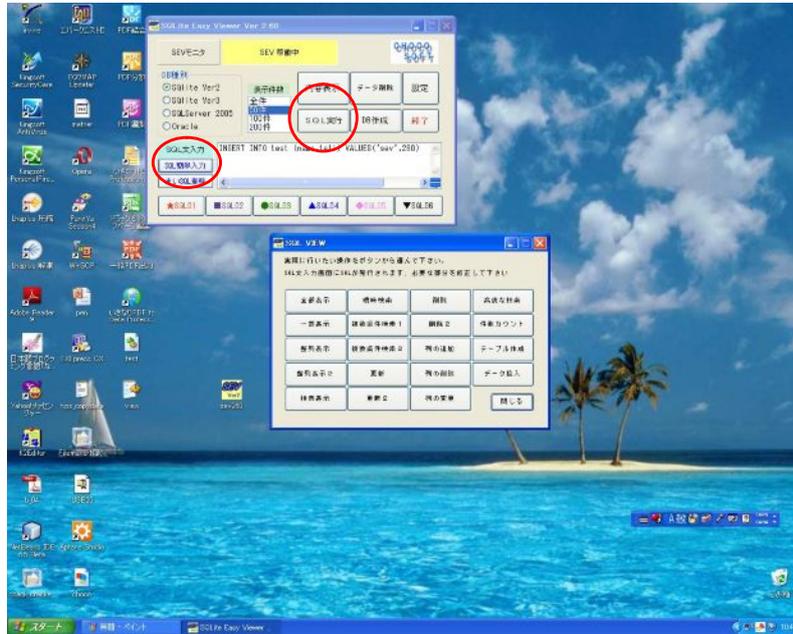
『SQL簡単入力』ボタンをクリックすると、SQL VIEWが表示されます。

使いたいSQL文のボタンをクリックすると、メインメニューのSQL文入力欄にテンプレートSQLが発行されます。

あとは、それをカスタマイズして『SQL実行』ボタンをクリックすればOKです。

尚、その時に利用するDBの種別をきちんと合わせて下さい。

(DB種別ラジオボタンで選択しておけばOKです。)



10. まいSQL文登録機能について

メインメニュー最下段の9つのボタンには、自分で作成したSQL文を割り当てる事ができます。

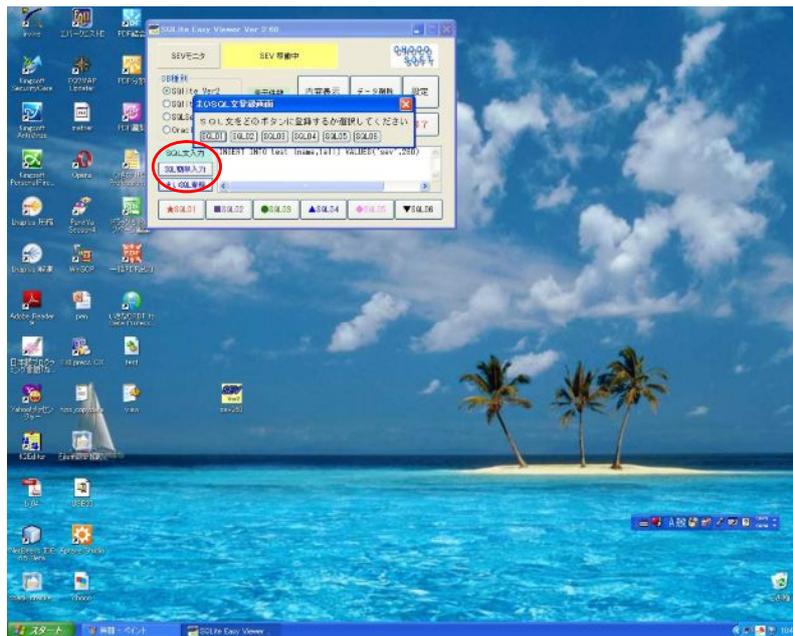
使い方は、SQL文入力欄に登録したいSQL文を記述してから、『まいSQL登録』ボタンをクリックするだけです。

どのボタンにSQL文を登録したいのかを聞いてきますので、登録したいボタンをクリックして下さい。

あとは、そのボタンをクリックする事により、いつでも自分が登録したSQL文を呼出せます。

尚、バージョン2.63からボタン名を任意の名称に変更できるようになりました。

変更する場合は、設定ボタンをクリックしてその中のボタン設定タブをご利用下さい。



1 1. DB作成機能について

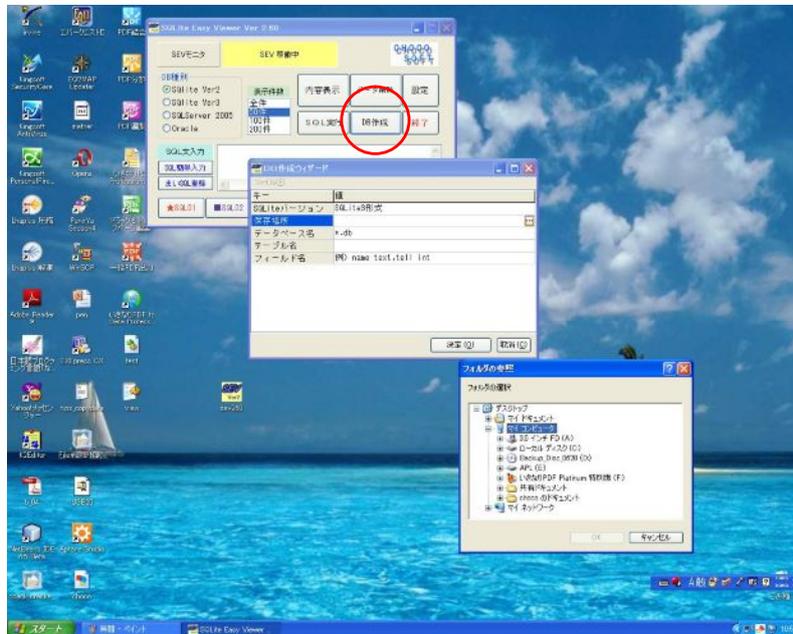
このソフトは、DBファイルを作成する事ができます。

作成可能なファイルの種類は、SQLite2形式とSQLite3形式のみです。

『DB作成』ボタンをクリックして、必要事項を選択したり、記入します。

最後に『決定』ボタンをクリックすれば簡単にDBファイルが作成できます。

フィールドの指定は、通常の『create table』文に準拠しています。



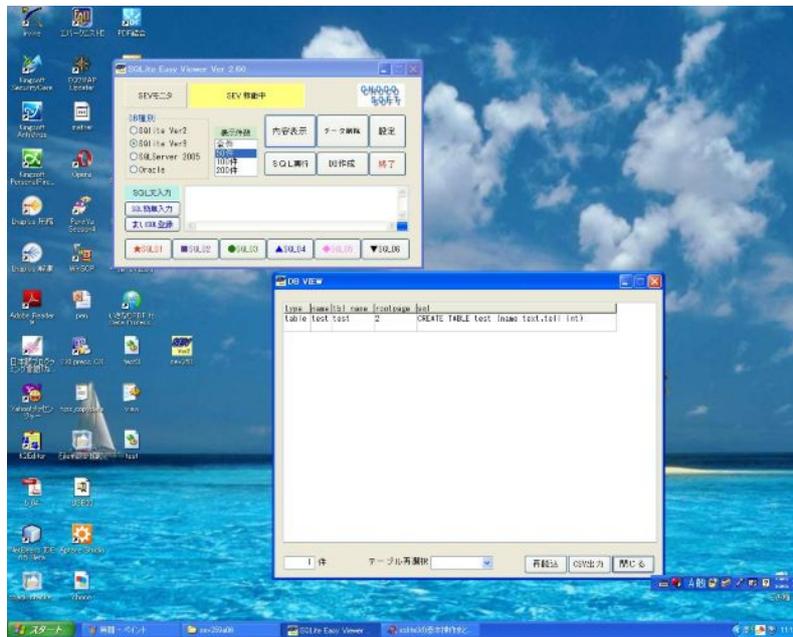
12. DB内のテーブル名を表示させる。

DB内のテーブル名を知りたい場合に使用しますが、DBを設定、登録した時にわざとテーブル1を空欄にしておきます。

すると、このソフトはDB内のテーブル名を表示するようになってます。

(ただし、一番下のODBCは除く。)

尚、その際にもIDやパスワード、DBファイルの場所などの情報は必須となりますのでご注意ください。



注意)

Access の時に限られますが、テーブル名を空白にしても全テーブルが表示されない場合があります。考えられるのは、以下の2点です。

1. そのMDBにパスワードが設定されている。
この場合は、設定画面でパスワードを入れてから再度開きなおして下さい。
2. Access のセキュリティ上、拒否されている。
この場合は、Access を普通に開いて【ツール】－【セキュリティ】－【ユーザー／グループの権限】から、【MSysAccessObjects】の設定を変更して下さい。



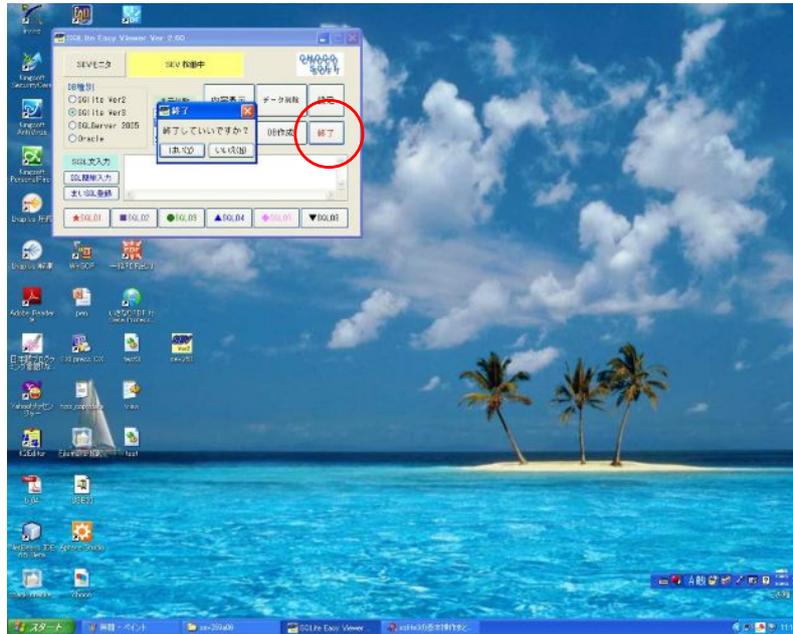
13. テーブル内のデータを削除したい。

テーブル1に登録されたテーブルに限ってですが、『データ削除』ボタンをクリックするだけで内容を消去する事ができます。



14. 終了

『終了』ボタンをクリックすると、プログラムは終了します。



15. ユーザーモードの設定及び配布について

本来SEVは、開発者が簡単にDBの操作を行う事を基本にしておりましたが、データベースを利用する企業が増えて来てシステムに疎い担当者に直接データベースを操作させるシーンも出てきているようです。

ユーザーモードは、このようなニーズに応える為に開発されました。

【ユーザーモードを設定する。】

- ① 設定画面を開いて、その他設定タブに移ります。
- ② ユーザーモード機能を利用するにしてから、ユーザーモードを抜ける時の管理者パスワードを設定して下さい。
- ③ 尚、管理者パスワードを設定しないとユーザーモードは設定できません。

設定画面

基本設定 ボタン設定 その他設定

エンドユーザー向けの限定モードを設定します。

ユーザーモード機能

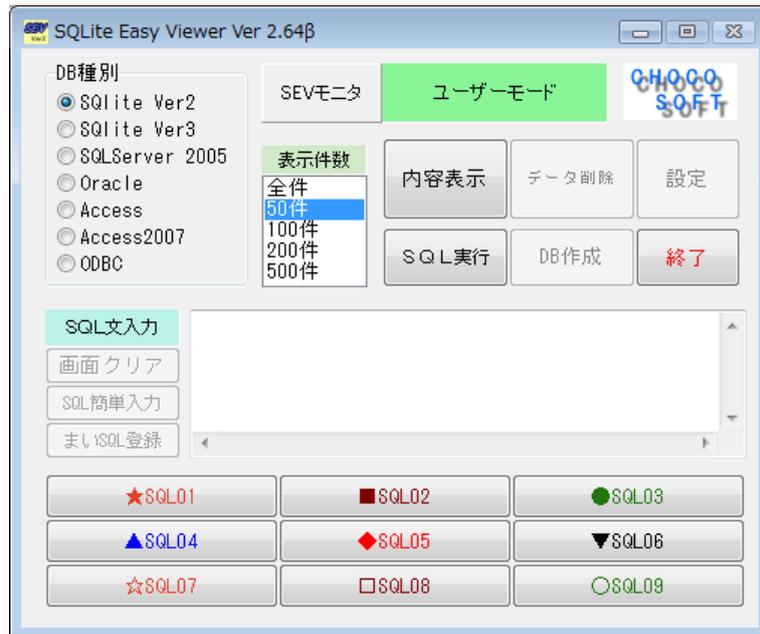
利用する 利用しない

管理者パスワードを設定して下さい。 **

同じ管理者パスワードを入力して下さい。 **

登録 閉じる

- ④ パスワードは同じものを2回入力します。
- ⑤ ユーザーモードのラジオボタンを利用するに、管理者パスワードを2回入力したら【登録】ボタンをクリックして下さい。
- ⑥ 問題がなければ、ユーザーモードに移行しています。



- ⑦ 上記画面のように、利用できない機能についてはボタンがクリックできません。
- ⑧ この時の設定情報は、暗号化されて【view.ini】に記載されてます。
- ⑨ エンドユーザーに配布する時には、【Sev.exe】と【view.ini】を一緒に配布して下さい。同一のフォルダに入っていれば認識します。
- ⑩ ユーザーモードの解除には、画面中央上部の【SEV モニタ】をクリックして下さい。
- ⑪ 管理者モードに戻る為のパスワード入力を求められますので、先ほど設定の【その他設定】画面で入力したパスワードを入力して下さい。
- ⑫ 其の状態で、【その他設定】画面のユーザーモードを利用しないにして、登録をクリックして下さい。
- ⑬ これで次回起動時にも管理者モードで起動できるようになります。

16. 各DBの設定の必須項目について

- ① SQLite2
DBファイルの場所
- ② SQLite3
DBファイルの場所
- ③ SQL Server2005
ID、パスワード、ホスト、DB名、PORT番号（通常は：1433）
例：sa、PASS123、HOST¥SQLEXPRESS、MASTER、1433
- ④ Oracle
ID、パスワード、DSN、PORT番号（通常は：1521）
例：system、manager、TNS、1521。
- ⑤ Access（2000、2003、2007）
パスワード、DBファイルの場所
- ⑥ ODBC
DSN、テーブル名
DSN例：コントロールパネルー管理ツールーデータソース
（ODBC データソースアドミニストレータ）の中にある、二つのタブに記述されて
いるデータリソースネーム。
この場合の二つのタブとは、ユーザーDSNとシステムDSNを指す。
※主に PostgreSQL や、MySQL がこれに相当する。



以上で、このプログラムの説明を終わります。